

第 36 回九州少年柔道大会申し合わせ事項

本大会は、小学生の九州大会であり、“安全指導”並びに、“教育的立場”から事故のないよう配慮する為、次の事項を申し合わせる。

- ・両膝を最初から同時に畳に着いて背負投等を施した場合、また、強引な巻き込み技を施した場合は、審判員合議の上「反則負け」とする。しかし、団体戦の場合は、選手エントリーの都合もあるので、その後一連の試合も、出場を認める。また、片膝を最初から畳に着いて背負投等を施した場合も、通常の審判規定では罰則はないが、本大会では「指導」を与える。
- ・大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した選手は、専門医の診察を受け出場許可を得ること。
- ・試合中、頭部を強打し試合続行不可能な場合は勿論の事、審判員が危険と判断した時も、審判員合議の上、試合者を棄権させる。また、個人戦の出場も認めない。
- ・大会当日体重測定は行わないが、審判員が階級に相違があると思われた場合、体重測定を実施し超過の場合は失格とする。また、個人戦の出場も認めない。
- ・背中の“ゼッケン”のない選手や、柔道着の袖口を折り曲げて着用している選手の出場は認めない。但し、肩口での折り曲げ、ズボンの裾での折り曲げは認める。
- ・監督・コーチ、一般の声援でも、審判員を侮辱するような暴言があった場合は、審判員合議の上退場とする。また、声援の中でも「教育的配慮に欠ける」応援も厳重に注意する。
- ・監督・コーチの服装も、審判員に準じ大会に相応しい服装・格好にて宜しく願いたい。
(短パン、Tシャツ等の軽装はお控え下さい)
- ・大会当日は、役員・審判員、そして、各連盟に監督10枚・コーチ15枚のIDカードを配布し、IDカードを持っていない一般の方々の試合会場への入場はできない。
- ・大会は、公共の機関を利用しているので、大会に関係のない他の施設の使用は厳禁とする。また、大会終了後、**10個のゴミ拾い**を参加者全員で行い、“来た時よりも美しく”の柔道ルネッサンス運動を実施する。